

1. 評価結果概要表

作成日 2007年9月11日

【評価実施概要】

事業所番号	3270800315
法人名	株式会社 ひょうま 介護事業部
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ えびすヶ丘
所在地 (電話番号)	島根県益田市下本郷町イ1128-58 (電 話) 0856-31-1250

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43 松江市民活動センター内		
訪問調査日	平成19年8月23日	評価結果確定日	平成19年9月28日

【情報提供票より】(19年 8月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5・8	

(2)建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造2階建て	造り
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000	円	その他の経費(月額)	15,000	円
敷金	有(円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無		有りの場合 償却の有無	有／無	
食材料費	朝食	300	円	昼食	300円
	夕食	380	円	おやつ	0円
	または1日当たり円				

(4)利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	5 名	要介護2	0 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86・3 歳	最低 73 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大畑医院 松ヶ丘病院 中島歯科医院 村野医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

案内板にしたがって坂道を上って行くと、社員寮を改造した2階建ての開設7年目のホームがある。ご近所も近く、良い関係が築けており、自治会行事のお誘いにも良く参加している。近くの畑をご近所と一緒に耕作し、野菜のお裾分けをしたりされたりの良い交流もある。法人のバックアップ体制もよくなされている。職員も厳しく自己評価を行い、利用者主体の介護に取り組んでいる。皆で準備し調理したテーブルを囲んで職員もいっしょに楽しく食事をされていて職員の笑顔が嬉しいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
①	入居者の権利は明文化され、玄関に置き持ち帰れるようになっている。ホームで行われていた整髪は地域の好みの美容院への支援となった。評価結果は運営推進会議や家族会を通じて報告している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
②	今まではホーム長が作成していたのを止め、サービスの質の確保・向上のため、自分たちで考えることで、良い気付きの機会になるようにと、全職員で全項目を少しずつ日割りで確認していった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
③	委員は医師や他事業所のケアマネージャーなど各方面から選び幅広い意見を聞いている。評価結果も報告され、意見を参考に改善事項にとりくんでいる。各種マニュアルの見直しもされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
④	職員会議で取り上げ話し合い、本社にも伝え解決に向けている。年一回無記名の家族アンケートを実施し、意見を聞いている。ひなたぼっこの季刊誌にも寄せられた苦情を載せている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
⑤	自治会に加入しており、自治会の行事のお誘いにも良く参加している。草刈溝掃除にも出ている。えびすヶ丘の回覧板を近所に回している。ひなたぼっこ祭りが行われ、認知症の啓発活動にも力が入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして今までの生活に近い環境作り、なじみの関りを大切にするということを念頭に置いた理念が作られている。	○	「地域住民との交流の下で」の活動の意義を地域密着型サービス事業所理念としてどう位置づけるか十分な論議をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1ヶ月に1回、理念に沿ったケアができたかどうかの自己評価を実施している。日常のサービス支援に支障のないよう、会議は19～21時。夜勤以外の職員が全員参加して、理念の確認、評価をしながら、日々実践努力をしている。法人は、会議手当等の支給をして支援をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、行事には良く参加している。近くの畑を近所の方たちと一緒に作っている。ボランティアの方が習字、絵手紙、談話などにきてくれる。中にはしたくない利用者もおられる。	○	ホームに来ていただくだけでなく、老人会自治会に働きかけ、ホームの方からも出かけて、近くの公民館で地域の方たちと一緒に色々習い事などしたいという計画を立てている。実現することを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は計画を立て職員で全項目を3つか4つずつ日割りで確認した。前回の外部評価結果の全部の改善はできていないが、改善提案等は和気藹々とした雰囲気を出し合って少しずつ改善計画を進めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「行方不明が出たときに」「家族アンケートの報告」「地域との交流」等の議題で昨年は5回開催、市の福祉課、他事業所のケアマネージャー、医師等多方面の出席者からの意見を聞いている。良い情報や協力も得られている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	火災、自然災害等防災対策マニュアルの作成時、市の協力を得た。介護部長は市の虐待防止のガイドラインを作るときに会議メンバーだった。	○	ホームが独自でさらに市担当者との連携を深めていかれる事を期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的には毎月のひなたぼっこ便り、健康面等は随時電話で連絡をしている。担当外の職員の異動の紹介ができず、面会時になっている。	○	職員の異動を知らせる良い工夫をしていただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族アンケートを無記名で実施。全部が本社に返るようしている。家族会も意見が言いやすい雰囲気作りを心がけている。不満や苦情を外部に表せることも明文化してある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム長の退職にあたっては、法人本部が入って影響を最小限にするよう配慮した。退職の際には少なくとも2週間は重なって働くことができる法人の支援がある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の複数のホームを運営している強みをいかし介護事業部長指導の研修計画があり、夜勤者研修を始め誰もが受けられるよう配慮されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回のホーム長会議、他ホームとの職員交流で見学実習があるが、法人内でのことである。	○	地域の他ホームとの職員交流研修を持っていただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	通ってきて様子を見てもらったり、入居前の体験入居を2～3泊していただいてから決定をしている。自宅訪問をして部屋の様子を見て居室に運ぶものやベッドの位置をきめ馴染めるように心している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者には調理や農作業、掃除などを一緒にする際に、お年寄りの知恵を発揮してもらい、その笑顔に職員は励まされている。日々の会話の中から「してもらいたいこと」を教えてもらい「共に生きる」ことの大切さを学ばせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の方から情報を得たり、日々のかかわりの中で思いや意向を把握しケアに活かしている。日々の新しい発見については毎日のミーティングではなしあう。そのためにセンター方式の活用を始めている。	○	職員全員が一人一人の思いや意向について関心を払い、把握しようと努めることを続けていただきたい。センター方式による見直しの早期進捗を期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者のケアプランを、関係者全員で作る意識を持ち、意見を出し合っている。本人のまだできることに着眼しながら、楽しみながら取り組める介護計画になるよう、法人内外の施設見学や研修等も行い、計画作りに役立っている。	○	全職員で、入居者の介護計画作りに積極的に取り組もうという意気込みを感じる。今後もその心を持続して、個々の介護計画作りをして欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の体調等に変化があれば関係者で協議し、その時点で見直しているが、定期的な見直しは6ヶ月ごとの見直しであった。今後は3ヶ月に変更予定。日々の気づきは、業務日誌やカンファレンス時に報告され対応されている。	○	定期的な見直しは、入居者の体調に変化がなくても1ヶ月ごとに実施して現状を記録し、変化があれば、即見直しすることが望ましい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の確保があり、入院期間の短縮や重度化した場合の本人家族の要望に応えられる用意がある。近隣の高齢者へのショートステイやデイのサービスの受け入れはまだ考えていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の変更なしに受診が続けられるよう支援している。慢性病は基本的には往診で薬局は薬を持ってくる。医療機関とは良い関係が築けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から主治医を交えて話し合いの場を持ち、方向性を決めており、入居者の変化に応じて繰り返し話し合っている。若い職員は死を看取ったことがなくターミナルケアの勉強会を持った。	○	事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえてこれからも関係者で方針を話し合っていっていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	月1回の自己評価、年2回の虐待防止自己チェックにより自己反省をしている。各ホームの傾向も出てくるので個人面接するなどして対処もしやすい。次の月の勉強会の議題にもする。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の過ごし方は決まっているが、個々の希望にも対応して、過ごしている。しかし職員にとっては真に入居者の希望を叶えているのかという自問もあり、個々の要望確認方法を探っている。	○	的確な意思表示ができない入居者には、家族からの確認や、現在取り組んでいるセンター方式の活用などで、個々の希望を引き出す工夫を期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を上手に刻む入居者がいるせいか炊き込みご飯を良く炊いていた。秋刀魚の塩焼きが多く出たりメニューが単調。職員は揃って楽しく食事をしている。	○	魚の美味しい地域に住んでいるにも関わらず魚の種類が少ない。入居者が自宅で食べていた魚料理を教えていただいたり、行事や慣習に合わせた料理を共に作るなどして楽しんでもらいたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在の入浴時間は4時～6時である。希望があれば8時までなら1人の方支援可能である。まだ検討の余地があると思われる。	○	入浴時間帯など検討し、基本的に毎日入浴可能とし、希望者には夜間入浴の支援をしていただきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケアプランを充実させたいと重点的に取り組んでいるところである。一人一人の生活歴やできることを本人の話の中や家族から聞き、役割や出番として日常場面にできるだけ多く取り入れるようにしている。	○	センター方式の導入により、ケアプランを充実させ、入居者の知恵や経験を発揮できるよう、また本人の本当の楽しみごと、気晴らしになる事を支援していただきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物、団地内の散歩、ドライブのほか、自宅近くの寺を訪ねたり、美容院に行ったりというその人らしい外出も増えてきた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には日中は鍵をかけないことにしているが、夕方の入浴時間帯は3名の職員の眼が届かなくなるので、内側からは開かないようにしている。2階廊下はモニターテレビで入居者の動きを察知している。	○	夕食、入浴の時間帯にボランティアの見守りをお願いするなど対策を講じていただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携してマニュアルに沿った訓練を年1回実施中。その際は、地域住民にも参加してもらい、消火器の使用法を知っていただく。入居者、職員、地域住民との訓練は、年3回実施。風水害の対策マニュアルは作成中。水、食料、用品等の備蓄は、法人から支援できる体制なので、ホーム内ではしていない。	○	2階からの避難路としての階段は2ヶ所あるが、1ヶ所は、高齢者にとっては危険が伴いそう。特に夜間は、地域住民の協力が不可欠なので、これからも日頃からの協力要請を図りたい。また、非常時の備蓄はホーム内で、3日間程度の準備が望ましい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量水分量は必要に応じてチェック表に記録し、職員が情報を共有している。	○	地域との連携を図る上からも栄養バランスや塩分のチェックに市や学校の栄養士の協力を得られたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	社員寮からの転用であるが、エレベーターが設置され階段を使わなくても上がり降りできる。入居者は元気に階段を利用している。談話室からは畑が見え季節の野菜が見える。濯ぎ物は低く干されている。	○	脱衣場の環境が家庭的でないので、もっとこじんまりと温かい物に検討していかれるとのこと、良い方向にもっていただきたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回の評価の後入居の時説明し家族への協力をいただいて使い慣れたものを許される限り持ち込んでいる。		